

乳幼児期の社会性の発達

0、1歳ごろ 共同注意からやり取り遊びへ

共同注意：大人に愛着を示し、その人と同じ物を見る。

8ヶ月頃より見られ、子供から周囲に働きかけるコミュニケーションの第1歩

社会的参照：不安や要求がある時に大人と目を合わせて確認する行動。

共同注意と同時期から見られ、これらの大人との相互的な交流がその後の社会性の発達に重要！

1歳→身近な大人との関わりの中でやり取り遊びができるようになる。

Ex. 「いないいないばあ」 ・ ・ 繰り返しのパターンの中で大人の反応を予測。

その行動を待ってやり取りを楽しむ対人関係の基礎となる遊び。

人への関心が希薄な子供はこの遊びが成立しにくい。

4、5歳ごろ 心の理論の発達

心の理論：相手の視点に立って物事を理解したり、考えたりできる発達。

4～5歳頃から始まる。友達と折り合い、協力して遊べるようになる。

個人差はあるがこれが発達していないと自己中心的な言動になりがち。

「相手の気持ちを考えて」「相手が嫌がってるでしょ」と言っても通じない。

1、自分の気持ちを振り返るよう伝える

2、その気持ちは相手も同じと伝える

3、自分の気持ち→相手の気持ちに切り替えられるよう段階を踏んで伝える

Ex. おもちゃの取り合い・・・遊びたい気持ちは友達も同じ、友達はずるくない

他にも「ぶたれて痛かった」「一番になりたかった」など